

**奈良県観光戦略本部**  
**近鉄奈良駅・新大宮駅・JR奈良駅周辺部会**  
**第2回**

令和6年10月31日（木）  
奈良県 観光局

## 1. 第1回部会以降の取り組みについて

- 第1回部会の議事概要及び会議開催後の取り組みをご報告します

## 2. 個別ヒアリングの結果

- ヒアリングで導き出された課題をグルーピングし、課題ごとにご意見を整理しましたので、追加のご意見をお願いします

## 3. 具体的な施策について

- ヒアリングを踏まえて事務局で検討中の施策について、ご意見をお願いします

# 第1回部会の開催について

## <第1回部会(6/14)>

- 奈良公園周辺エリアにおいて、宿泊業、飲食業、地域づくりなどの分野で、地域に根ざして活動をしている委員の皆さまから、**奈良公園及びその周辺地域の現状の問題点や将来のあるべき姿**について、“現場の視点”から課題を提起していただいた。

### 【提起いただいた主なテーマ】

- ✓ 観光消費額、滞在時間について（「長期滞在してもらえるコンテンツの造成や地域全体の取組が必要」など）
- ✓ 情報発信について（「今ある情報を整理して、ターゲットにより発信方法を考えていくべき」など）
- ✓ ゴミなどインバウンドのマナーについて（「文化の異なるインバウンドが増えれば、ごみの問題は必然的に発生する」など）

### 第1回部会

<会場出席> 金田委員、川島委員、高橋委員、豊澤委員、中野委員、平井委員、藤丸委員

<オンライン出席> 江口委員、大久保委員

<ご欠席> 西岡委員



## <事務局から各委員への個別ヒアリング(9/3~9/26に実施)>

奈良県観光戦略本部が数値目標を掲げる、**観光消費額と宿泊者数の引き上げ**について、ご意見をいただいた。

- 第1回部会で提起していただいた課題を背景に、**地域にとって必要な取り組みとは**、を主な観点として、地域として目指すべき方向性を示していただいた。

# 地域の観光課題（代表的なもの）について

第1回の部会や個別ヒアリングから導き出された課題を、大きく5つの論点に整理。

（※実際は複数の論点が密接に関連しているが、便宜上特定の論点にグルーピングしています。）

## 【①観光消費・商品造成・販路】

- ✓ 豊富な資源があるのに、リピーターが不足している
- ✓ 既存の体験プログラムについて、十分に認知されていない
- ✓ 宿泊施設と観光施設の間の連携が十分ではない
- ✓ 社寺などの宗教施設をコンテンツとした商品造成の拡大は困難
- ✓ 行政主導のイベントは長続きせず、地域の巻き込みも不十分

## 【②プロモーション】

- ✓ マスコミやWebサイトでの全国的な情報展開が不十分  
（旅マエで情報を届ける）
- ✓ インバウンドが必要としている情報が提供できていない
- ✓ ターゲット層に応じたプロモーションができていない
- ✓ 「売り方」に精通した人材が育成されていない

## 【③受入環境】

- ✓ 安心して子どもを連れてくることのできる環境整備が必要
- ✓ 県の施設の更なる有効活用
- ✓ 奈良公園らしい環境の維持とイベント会場としての活用の両立

## 【④宿泊】

- ✓ 宿泊することで体験できるコンテンツの整理やプロデュース  
ができていない（旅ナカで情報を届ける）
- ✓ 国内を中心としたアジア地域の需要拡大が課題
- ✓ ビジネス需要が十分に掘り起こせていない

## 【⑤地域づくり】

- ✓ 「ならまち」地域のブランディングが不十分
- ✓ 「ならまち」地域への観光客の動線設計が十分に検討されていない

# 個別ヒアリングで聴取した主なご意見について(1)

## 【①観光消費・商品造成・販路】

### 課題

- |                              |                                |
|------------------------------|--------------------------------|
| ✓ 豊富な資源があるのに、リピーターが不足している    | ✓ 社寺などの宗教施設をコンテンツとした商品造成の拡大は困難 |
| ✓ 既存の体験プログラムについて、十分に認知されていない | ✓ 行政主導のイベントは長続きせず、地域の巻き込みも不十分  |

### 委員ご意見（一部）

- 毎年宿泊してもらおうリピーターを獲得するには、民間が主体となって企画し「ビジネス」として成立する「体験プログラム」が数多く準備されている必要がある。また、既にある体験プログラムの情報が宿泊施設等に提供されていないことも課題である。
- わざわざ新しい夜間のコンテンツを造成する必要はなく、既存のものの工夫でよい。
- 既存の夜間や朝のコンテンツに、オーバーフローしない程度の手を加えて造成してみるのもよい。
- 夜の楽しみの一つとして“バー”は重要。宿泊客のリクエストに応じて「バーマップ」を提供したら、大変喜ばれた。夜の実態を研究するのに、バーの経営者に意見を聴くのが良いのではないか。
- 国立博物館の特別展が開催されている時期は、宿泊者数がとても増える。奈良に「泊まる」からこそ楽しめる「ナイトミュージアム」がたくさん行われれば、宿泊者数の増加につながるのでは。
- 社寺は観光施設ではなく宗教施設であるため、協力いただける範囲には限界があり、すでに限界に達している。宗教施設に頼らない誘客として、民間主導のイベントやコンベンションなどを軸に、集客が見込め、地域に還元できる（地域にお金が落ちる）ものを積み上げていくしかない。
- 行政主導でトップダウンで初めたイベントは長続きしない。宿泊者数が増えることは良いことだが、泊まってもらうために税金を投入してイベントをしても、一過性のものであり継続されない。

# 個別ヒアリングで聴取した主なご意見について(2)

## 【②プロモーション】

### 課題

- ✓ マスコミやWebサイトでの全国的な情報展開が不十分  
(旅マエで情報を届ける)
- ✓ ターゲット層に応じたプロモーションが不十分
- ✓ 「売り方」に精通した人材が育成されていない
- ✓ 外国人に効率的に情報提供を行うツールがない

### 委員ご意見 (一部)

- テレビ等で奈良が取り上げられた際の効果は絶大であるので、“奈良は面白い！”ということをしっかり届けることが大切。
- 様々な情報サイトへのアクセス人数を上げる工夫が必要。
- 宿泊者数を増やすには、OTA（エクスペディア、じゃらん、楽天等）での広報キャンペーンが効果的であり、そこに県からの支援があるとありがたい。
- 県内飲食店の情報（対応可能言語、予約の要不要、ハラルへの対応等）を、多言語で表記するサイトを行政の協力で整備できれば、インバウンドの飲食店利用の促進につながる。
- 体験プログラムなどのコンテンツは売り方が重要であり、ターゲット層に響く人材を活用することは非常に効果的である。
- 奈良の魅力や奈良公園周辺の体験プログラムをよく知っており、その「売り方」に精通している人材を確保することが必要。観光協会やビューローが、その役割を担うべき。
- 民間事業者の情報発信に行政が力を貸していただけるとありがたいが、まずは奈良県の職員の皆さんが奈良に興味を持ってもらうことも大切だと思う。

# 個別ヒアリングで聴取した主なご意見について(3)

## 【③受入環境】

### 課題

- ✓ 安心して子どもを連れてくることのできる環境整備が必要
- ✓ 奈良公園らしい環境の維持とイベント会場としての活用の両立
- ✓ 県の施設の更なる有効活用

### 委員ご意見（一部）

- 知識欲のある30代の観光客（一度ファンになってもらえると先が長い）を誘致することも必要。そのためには、子どもが遊びながら学べる「鹿ミュージアム」や常設の託児所等、**安心して子どもを連れてこれる環境整備**は重要。
- 奈良公園周辺が**家族連れに選ばれるために必要な施設**を検討してはどうか。
- **インバウンドに付加価値の高い体験**をしてもらうのにバスターミナルは適切な場所。**バスターミナルに茶室**などを整備してみてもどうか。
- **イベントや観光施設などの建設は民間に任せ**、行政は民間が活動しやすい環境整備をすればよい。奈良公園は、今の状態が維持されていることそのものが価値であり、**行政はその価値を守る**だけでも十分役割は果たしている。
- 奈良市内の観光戦略やコンテンツ造成は奈良市に任せ、奈良県は奈良公園や平城宮跡を活用できるよう、**規制の見直しや民間が利活用するための情報整理**に注力してはどうか。

# 個別ヒアリングで聴取した主なご意見について(4)

## 【④宿泊】

### 課題

- ✓ 宿泊することで体験できるコンテンツの整理やプロデュースができていない（旅ナカで情報を届ける）
- ✓ 国内を中心としたアジア地域の需要拡大が課題
- ✓ 宿泊施設と観光施設の間の連携が十分ではない
- ✓ ビジネス需要が十分に掘り起こせていない

### 委員ご意見（一部）

- 宿泊者に提供できるコンテンツを見直し、「奈良での宿泊」を上手にプロデュースすることが必要。新たなコンテンツを造成するのではなく、今あるもので勝負していくことが継続していくためのポイント。
- 観光客向けの体験プログラムの提供者と宿泊施設、飲食店（特にランチ営業）との連携が進めば、相互にお客さんを紹介することができ、宿泊を軸に、取りこぼしている観光客の確保につながる。
- インバウンドの動向は不安定であり、県民などによる内需の拡大も必要である。奈良公園の多様な文化資源により訴求できるターゲットは、県民・国民やアジア地域の方だと考える。
- 宿泊者を増やすためには、観光客だけではなく、ビジネス需要なども掘り起こしていくべきであり、そのためには県内に大きな企業があることは大きな強みとなる。企業が増えることで関係人口が増え、宿泊施設としては安定した宿泊者数の確保につながる。



# 個別ヒアリングで聴取した主なご意見について(5)

## 【⑤地域づくり】

### 課題

✓ 「ならまち」地域のブランディングが不十分

✓ 「ならまち」地域への観光客の動線設計が十分に検討されていない

### 委員ご意見（一部）

- 今ある景観を活用し、奈良公園に集まる観光客が「次にどこに行くか」その動線を設計することが大切であり、その意味で「ならまち地域」として観光客をどう受け入れるかを考えてみてはどうか。
- 「ならまち地域」に良いお店が増えれば良いお客さんが増える。また、照明を統一するなど少し雰囲気づくりをするだけで人の流れは変わる。ならまち地域全体または一部の重点エリアだけでもブランディングを検討してみてはどうか。
- コロナ禍からの脱却の時期であり、人の流れが変わっているかもしれないので、夜間の人の流れの調査を試みるのもよい。

# 具体的な施策について

**観光消費額を引き上げるために有効な施策について、ヒアリングを踏まえて検討**

## 実施予定の施策

- 県負担金を拠出するイベントについて、支援の在り方を見直し。
- 夜間の消費拡大につながるコンテンツ（ナイトミュージアム、夜市等）の造成について、バーなどと連携し、行政施設の活用などにより民間事業者を支援。
- 奈良公園観光のゲートウェイ機能を強化するため、奈良公園バスターミナル2階（奈良ストーリー）に、「酒や茶など」を楽しめるバーカウンターやインフォメーションセンターを整備。
- O T Aサイトを活用して、国内・海外向けに広報キャンペーンを実施。



これまでいただいたご意見を踏まえ、当部会の対象地域で必要な施策について検討を行うとともに、**次年度も継続的に部会を開催**し、委員の皆さまへ情報の共有し、またご意見をいただきたい。

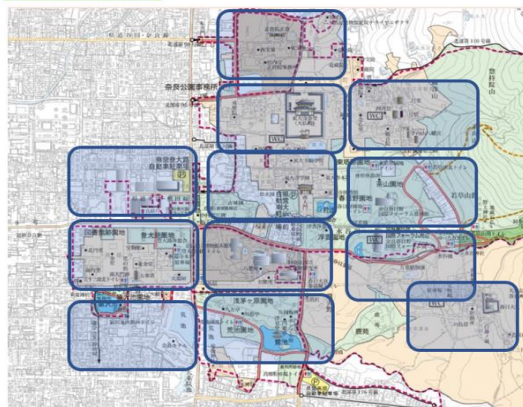
# 【参考】令和6年度に実施する実証実験について

○奈良公園周辺への観光客等の集中について、観光庁の「**オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業**」にかかる補助を活用し、混雑緩和の実証実験として令和6年度に実施するもの

## 【奈良公園エリア内での混雑の分散・平準化】

- 100箇所程度のセンサー設置等により、人流をリアルタイムで状況把握。
- 奈良公園エリアを10箇所程度に区分して混雑状況をサイネージ、web等にリアルタイムで表示し、混雑回避やエリア内での回遊促進を図る
- 人流のシミュレーションにより、混雑回避や快適な周遊ルートの提案を行う。

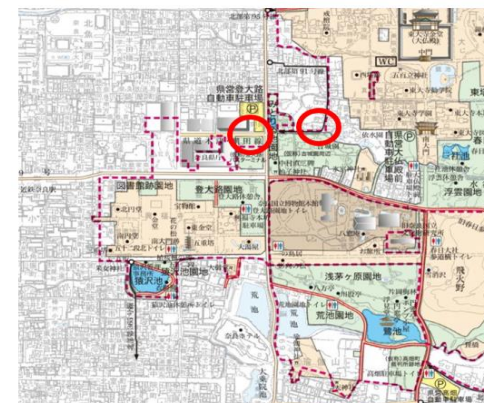
事業エリア ※青枠は、センサー設置を予定するエリア



## 【奈良公園エリア内での混雑の分散・平準化、マナー啓発】

- 多言語対応可能な誘導員（ガイド）を配置することにより、ソフトに観光客に対し、導線の案内をはじめ、マナー啓発等を行う。
- 人員配置場所は、地元・関係団体、奈良市等との調整により決定予定。以下の場所を想定
- 奈良公園バスターミナル周辺
- 登大路交差点周辺

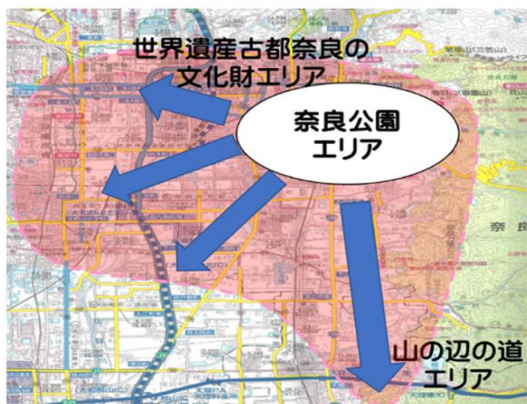
事業エリア ※赤丸は想定場所であり、誘導員（ガイド）は機動的にエリア内に配置予定



## 【世界遺産古都奈良の文化財エリアである西ノ京周辺や、山の辺の道エリアへの周遊促進による奈良公園エリアの集中緩和】

- ①ファムトリップの実施によるSNS発信  
欧米のインフルエンサーによるファムトリップの実施・SNS発信により、奈良公園以外の周辺エリアの魅力発止による周遊促進
- ②個別ガイドと連携したSNS情報発信  
奈良公園エリアにおいて個別にガイドを実施し、奈良公園エリアの外に誘導すると共に、SNSでの魅力発信を通じ当該SNS閲覧者への周遊促進を促す
- ③動画放映による魅力発信  
周辺観光エリアの動画作成・放映、配信により、旅前・旅中において多様な観光地を提示し、奈良公園の時間的・物理的な集中を緩和

事業エリア ※送客先は、西ノ京、ならまち、きたまち等を想定  
奈良市観光協会実施のオーバーツーリズム対策事業とも連携



## 【奈良公園エリアのゴミのポイ捨て対策】

- 約40年前にゴミ箱を撤去し、「ゴミ箱のない都市公園」であった当地域への、多様な文化・生活様式の方の受入環境づくりのための実証実験。
- ゴミの現状調査を行った上で、ゴミ箱の設置実証実験を行うもの。
- 以下の場所を想定
- 奈良公園バスターミナル周辺 等

事業エリア ※赤丸は想定場所であり、公募型プロポーザルにて設置場所を検討

